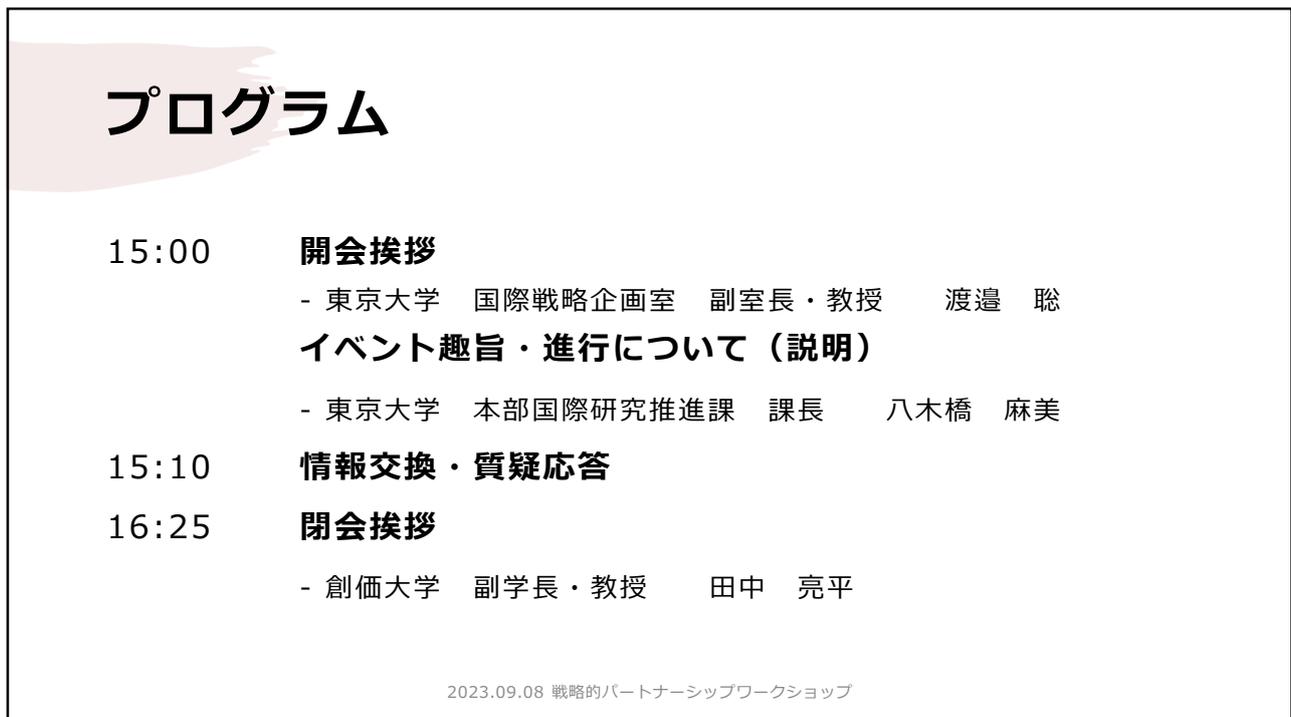




1



2

## 情報交換・質疑応答 – 概要

- 大学の国際化促進フォーラム「国際競争力強化に向けた「戦略的パートナーシップ」のネットワーク構築」プロジェクトのこれまでの活動を通じて得られた知見を紹介
- 現時点で戦略的パートナーシップを締結されていない大学より事前に寄せられた質問・課題等に対し、プロジェクト連携大学から参考情報や、関連する取り組みを紹介

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

3

## 情報交換・質疑応答 – 質問リスト①

- Q1：戦略的パートナーシップを実施することで具体的にどのような利点があるのか。
- Q2：戦略的パートナーシップ協定の特徴はどのようなものか。通常のMOUとは具体的にどのような違いがあるのか。
- Q3：通常の協定校との交流とは異なる、戦略的パートナーシップ校との交流形態の特徴は何か。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

4

## 情報交換・質疑応答 – 質問リスト②

- Q4：戦略的パートナーシップ校の選定に際し、特に重視された事項はどのようなものか。
- Q5：同じ相手校とそれぞれに連携している複数の研究者がいるものの、そうした研究者同士の学内での横連携や、大学間の全学的連携に至っていないという課題がある。
- Q6：一般的な大学間学術交流協定等からどのように戦略的パートナーシップに発展させてきたか等の事例を紹介いただきたい。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

5

## 情報交換・質疑応答 – 質問リスト③

- Q7：工学分野での連携から全学的な戦略的パートナーシップに発展した事例や、工学分野を含む連携で両校の特有のリソースを効果的に活用している事例があれば伺いたい。
- Q8：戦略的パートナーシップの一環として教育連携事業に参画する場合に求められる要件はあるか。例えば単位互換できる英語課程を設けていることが必須なのか、長期間自大学を離れることになる場合、大学間の学事暦や履修要件のギャップなどをどのように解消しているのか。特に、履修要件の厳しい理工系機関の取組み事例を共有いただきたい。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

6

## 情報交換・質疑応答 – 質問リスト④

- Q9：戦略的パートナーシップと銘打った活動について、評価をどのように行っているのか。
- Q10：戦略的パートナーシップに関する代表的な文献（研究論文等）があればご教授いただきたい。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

7

**Q1：戦略的パートナーシップを実施することで具体的にどのような利点があるのか。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

8

## Q1：戦略的パートナーシップの具体的利点

• A1：

両大学のトップレベルが重要性を認識することにより、戦略的パートナーシップとして実施したい活動を推進しやすくなると期待される。各部局・各分野における様々な活動を含む場合、両大学間の研究・教育交流を大学全体で束ね、全学レベルの連携に発展させることで、大学間の協力関係をより強固にし、長期的・安定的なものとする事ができる。また、分野横断的な研究・教育交流を促進することが可能となる。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

9

## Q1：戦略的パートナーシップの具体的利点

• A1：

国際的学術交流（研究交流、学生交流など）の実施に際し、担当する教員個人だけでは、大学間の組織的な対応を引き出しにくいことと、予算や運営に必要な人員確保に限界があり、事業の発展や継続が脆弱になることから、組織的に運営する戦略的パートナーシップが果たす役割は大きい。特に教育に関わる事業の場合、教育の質を担保するために、異なる国のカリキュラムどうしを組織レベルで対応させる必要もあるため、この際にも戦略的パートナーシップは有効である。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

10

## Q1：戦略的パートナーシップの具体的利点

- A1：

通常の大学間協定よりも特定の戦略的パートナーとの連携を上位に置くことにより、当該パートナー大学との学内の個別の研究・教育連携事業の可視化や認知度の向上につながるメリットがある。

個々の連携の当事者にとって事業の円滑な推進につながり、また、大学全体としては、戦略パートナーとの接点を増やすことによって、全学レベルでの協力関係強化につながるメリットがある。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

11

## Q1：戦略的パートナーシップの具体的利点

- A1：

学内で認知されることにより、交流活動を推進しやすくなる。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

12

## Q1：戦略的パートナーシップの具体的利点

• A1：

学術交流と研究の拡大、国際連携の強化、資源共有と効率化、産学連携の促進、プレゼンテーション向上、多様な教育プログラム提供などの利点がある。これにより、高度な研究成果や国際的な人脈、産業界との連携、幅広い知識習得が可能となる。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

13

**Q2：戦略的パートナーシップ協定の特徴はどのようなものか。通常のMOUとは具体的にどのような違いがあるのか。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

14

## Q2：戦略的パートナーシップ協定の特徴

- A2：

戦略的パートナーシップとして特定の協定カテゴリーを設けることはしていない。

- A2：

必ずしも戦略的パートナーという名称の個別の協定はないが、すでに協定がある大学で、複数の部局で複数の分野における交流を長年行っている大学を重要な戦略的パートナーとして位置づけている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

15

## Q2：戦略的パートナーシップ協定の特徴

- A2：

学生交流や部局間の共同研究といった特定のトピックを扱う通常の協定・覚書に比べ、戦略的パートナーシップ協定・覚書は（教育・研究交流を含む）より幅広い連携に関する包括的内容であることが多い。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

16

## Q2：戦略的パートナーシップ協定の特徴

- A2：

日本の3大学、インドネシアの3大学が参加するSUIJIコンソーシアムの場合、コンソーシアム事業を継続的に実施するための包括協定と事業ごとの覚書を取り交わしており、事業の継続性と発展性を確保するのに大いに役立っている。特に、大学トップが関与するパートナーシップとして実施していることから、実務レベルの担当教員が入れ替わっても事業そのものの継続性が保証される。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

17

## Q2：戦略的パートナーシップ協定の特徴

- A2：

戦略的パートナーシップ協定は、長期的で具体的な共同目標やプロジェクトを重視し、資源共有や専門知識統合などの深い関係を築く特徴がある。一方、通常のMOUは事項の合意や協力に焦点を置き、詳細な関与は限定的となる。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

18

## Q2：戦略的パートナーシップ協定の特徴

### ・ A2：

（事例紹介としての補足）現状、本学では以下2校と戦略的パートナーシップを締結している。

- ボン大学：教職員交流の一層の加速を目的とし、先方より締結の依頼があった。研究交流・現地オフィスの活用も含めた包括的な内容の協定を締結している。
- ブリュッセル自由大学：Privileged partnershipとして先方から提案があった。研究交流に対して先方より経済支援がつく特定パートナーシップ校10校のうちの一つとなった。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

19

## Case 1: University of Bonn

### ➤ History

- **1960: University-wide agreement signed**
  - More than 80 Bonn students have been at Waseda as exchange students. 62 Waseda students have been at Bonn.
- **1990-2016: Waseda European Center at University of Bonn**
- **2017: University of Bonn Day @ Waseda University**
  - Strategic partnership agreement signed**
    - Mainly aiming to enhance researchers/staff mobility
    - Exchange of office spaces for visiting faculty members

20

## Case 2: Université libre de Bruxelles

### ➤ History

- **1996: University-wide agreement signed**
  - More than 17 Bonn students have been at Waseda as exchange students. 17 Waseda students have been at ULB.
- **2010: Privileged partnership agreement signed**
  - ULB designated ten universities as "Privileged Partnership Universities" committed to high level of scientific and pedagogic collaboration
- **2016: Establishment of Waseda Brussels Office (WBO)**
  - One administrative staff appointed by ULB is working for Waseda
  - Roles and functions: Raising Waseda's profile in Europe, promoting international joint research, organizing academic events, developing networks and collecting first-hand information about projects in Europe

21

**Q3 : 通常の協定校との  
交流とは異なる、戦略的  
パートナーシップ校との  
交流形態の特徴は何か。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

22

### Q3：戦略的パートナーシップ校との交流形態の特徴

• A3：

双方のパートナー校から複数の部局が参加するシンポジウムの開催など、研究者間レベル、部局間レベルを超えた全学的交流活動を実施することができる。特定の分野・活動に絞った交流の場合には、交流の規模・密度等の点で通常の協定校との交流より高いレベルを期待する。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

23

### Q3：戦略的パートナーシップ校との交流形態の特徴

• A3：

両大学の執行部が挨拶等で参加するケースも多く、全学的な交流という位置づけができる。また、両大学の間で資金を用意し、シードファンドとして研究者間の共同研究等を支援・促進することもある。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

24

### Q3：戦略的パートナーシップ校との交流形態の特徴

• A3：

通常の協定校よりも分野や課程、研究や教育など複数の段階・種類の交流があり、シンポジウム等のイベントも特定の部門ではなく、大学全体の取り組みとして共同で実施している。また、例えばU7+アライアンスの学長会議を本学のキャンパスで開催し、各国政府に提言するなどの活動を行ったが、こうした大学コンソーシアムでの活動を通じて、ひとつの協定校にとどまらず、価値を共有する大学群との戦略的でインパクトの大きな連携を深めることができた。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

25

### Q3：戦略的パートナーシップ校との交流形態の特徴

• A3：

（事例紹介としての補足）パートナーシップ校内に現地オフィスを設置し、迅速に現地の情報収集をしたり、派遣する研究者を現地で支援したりと、より密な連携が可能になった。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

26

## Waseda Brussels Office (WBO)

### ➤ Major Achievements

#### 1. Academic events

Public Conference (1/year), workshops (4/year), EU-JAPAN Forum (1/year)

#### 2. MOONSHOT Project with Prof. Haruko Takeyama

- Innovation Research Project by Cabinet Office
- 1 billion yen for 5 years

Year/Month	Support by Brussels Office
2018/11	WBO managed holding a workshop featuring Prof. Takeyama with researchers from EU universities
2020/1	WBO introduced institutions for investigation of advance agriculture
2020/2	WBO and Waseda URA visited EU Commission to explore the possibility of collaboration with Horizon Europe → communication with Prof. Takeyama
2020/5	Prof. Takeyama applied to MOONSHOT
2020/9	The project was adopted by Cabinet Office
2022/Fall	Workshop at WBO (TBD)

27

**Q4 : 戦略的パートナーシップ校の選定に際し、特に重視された事項はどのようなものか。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

28

## Q4：戦略的パートナーシップ校の選定基準

- A4：

相当の交流実績があることと両校が締結に合意することは不可欠であるが、どの大学にも共通する基準はない。本学の場合、戦略的パートナーシップ校の選定にあたっては、当該相手大学と、複数の部局において活発な交流が行われてきたことを重視した。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

29

## Q4：戦略的パートナーシップ校の選定基準

- A4：

本学と理念を共有し、本学の教育・研究活動の飛躍的な向上に資する組織的な連携が期待できること、及び共通の課題について分野横断または特定分野において、先端研究を実施できる研究力を有することを選定の基準としている。その他、大学間協定等これまでの交流実績、学生派遣促進の可能性や大学ランキング、地域性等を重視している。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

30

## 2. Establishment of Strategic Partnerships (Cont.)

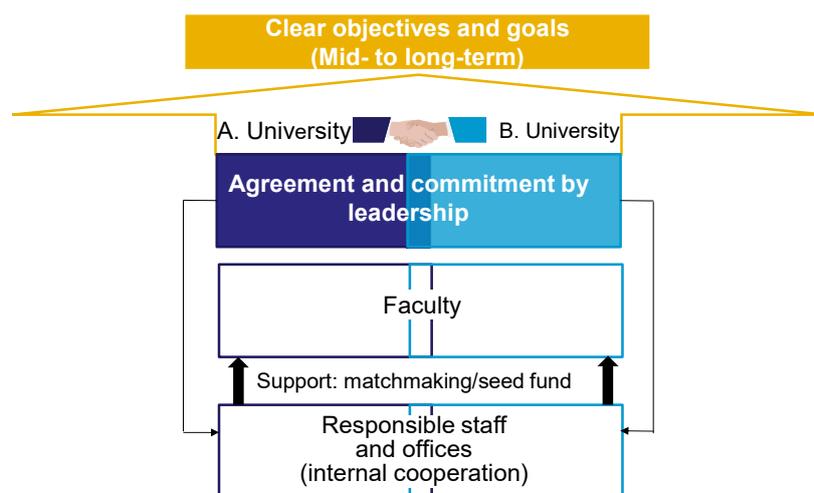
### Preparation for Partnerships (2016 –)

What we did at the beginning in 2016:

- Review the existing partnerships:
  - Number of involved researchers and students
  - Range of academic disciplines
  - External research funding
  - Number of co-authored publications
- Analyse the potential of further collaboration:
  - Buy-in by key players
  - Other disciplines or research themes in addition to existing ones
  - Compatibility of academic profiles
  - Related policy of candidate institutions as well as their government
  - Internal and external funding opportunities
- Approval process

## 2. Establishment of Strategic Partnerships (Cont.)

### Governance and Organisation



## Q4：戦略的パートナーシップ校の選定基準

- A4：

戦略的パートナーシップ締結時にトップレベルの交流実績や国際共同研究実績を重視している。特に、過去の成功事例や定期的な交流、共同研究の実施を評価し、教員・学生の積極的な交流や持続可能な関係構築も要件と考えている。相互の信頼と協力意欲が高まり、成果に付加価値をもたらす時に戦略的パートナーシップ校へ発展すると考える。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

33

## Q4：戦略的パートナーシップ校の選定基準

- A4：

長年の交流協定（主に学生交換）があり、教育、研究を問わず、比較的多方面で交流があることを重視している。また、大学コンソーシアムにおいて、特に交流がある大学と連携を深めている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

34

## Q4 : 戦略的パートナーシップ校の選定基準

- A4 :

共著論文をはじめ交流実績を調べたうえで、交流実績に申し分なく、今後も中長期スパンで持続できる関係と判断した。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

35

**Q5 : 同じ相手校とそれぞれに連携している複数の研究者がいるものの、そうした研究者同士の学内での横連携や、大学間の全学的連携に至っていないという課題がある。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

36

## Q5：個別の連携から横連携、全学的連携へ

- A5：

例えば大学本部（役員、事務組織等）が先方とすでに交流を持っている研究者をリストアップし、研究者間での横連携を促進するといったことが考えられる。また、先方の大学本部に働きかけることで、トップレベルでの協力関係を結ぶことも考えられる。

- A5：

大学本部同士で話し合う機会を多く作り、本部から働きかけることで、賛同くださる研究者を募っている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

37

## Q5：個別の連携から横連携、全学的連携へ

- A5：

学内の国際交流事業に関する情報を集約する国際連携推進機構のもとに設置された会議や企画室の運営に複数部局の教員が携わり、情報共有を図っている。この過程で、シナジー効果が期待される連携の形ができることも多い。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

38

## Q5 : 個別の連携から横連携、全学的連携へ

### • A5 :

学内横連携と大学間全学的連携の強化を図るよう留意している。具体的には、本学のグローバル事業を統括する「グローバル・コア・センター」および中長期計画を審議する「国際戦略室」にて対応を協議し、国際交流プログラムのマッチングを検討する。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

39

## Q5 : 個別の連携から横連携、全学的連携へ

### • A5 :

学内で行われているあらゆる連携活動の中から、システムティックに情報を集約することはなかなか難しい。複数学部と交流がある大学に対し、法人が全学的な取り組みを強化する必要がある。それらの複層的な活動の潜在力を大学全体としてどのように引き上げていくのかも課題である。小規模ではあるが、学際的な共通テーマによる合同ワークショップの実施、相互の大学間の人的交流促進や共同研究の呼び水の資金補助などの試みを行ったことはある。また、そのような活動を属人化せず組織の記憶としてデータ化していくことが重要で、点のつながりを面へ、層へと広げていく土台になると認識している。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

40

## Q5：個別の連携から横連携、全学的連携へ

### ・A5：

最先端の研究実績等を誇るものであれば、無理に横連携を進めることなく、当該分野の更なる連携促進に注力する戦略的な連携も考えられる。また、大学間でテーマ性を持たせたシンポジウム等を開催し、関係教員が一堂に会する機会を設けることにより、互いの取り組みを知ることとなり学内の横連携が生まれることがある。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

41

**Q6：一般的な大学間学術交流協定等からどのように戦略的パートナーシップに発展させてきたか等の事例を紹介いただきたい。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

42

## Q6：通常協定から戦略的パートナーシップへ

- A6：

相手校との間で複数の部局間覚書が締結され、個別に部局間交換留学が実施されていたところ、学生交流をより活性化し、全学的なものとするために、全学覚書に統合した。これを、「戦略的パートナーシップ大学プロジェクト」への学内採択に伴い、関係者間での検討を経て、戦略的パートナーシップ覚書に移行した。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

43

## Q6：通常協定から戦略的パートナーシップへ

- A6：

WPIの10年間の実績をベースに、多分野に展開していった。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

44

## Partnerships &gt;&gt; Strategic

45



## Kyushu-Illinois

Kyushu University and the University of Illinois Urbana-Champaign reached an agreement to be strategic partners and promote mutually beneficial and sustainable collaboration.

## Phase 1

- 2010 WPI-I2CNER
- Decade partnership

## Phase 2

- **August 2019 Strategic Partnership**
- 2020 WPI Academy

## Phase 3

- 2021 Kyushu-Illinois Strategic Partnership Colloquia Series (Online)
- 2022-2023 Joint Fund

45

## Q6 : 通常協定から戦略的パートナーシップへ

## • A6 :

本学と大学間協定を有している大学を中心に、本学と理念を共有し、本学の教育・研究活動の飛躍的な向上に資する組織的な連携が期待できること等を基準に戦略的パートナー（グローバルナレッジパートナー（GKP））の候補校を選定している。候補校の中からこれまでの実績や今後の活動計画に基づく連携活動の実効性・発展性等の観点から、GKPにふさわしいと判断する大学を所定の手続きを経て、GKPとして認定している。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

46

## Q6：通常協定から戦略的パートナーシップへ

• A6：

戦略的パートナーシップとして特定の協定カテゴリーを設けることはしていないが、全学的交流が望まれるような海外大学との間で、複数分野における協力関係の発展を促すべく、両校のトップの合意に基づきマッチングファンド事業を設置する等の策を講じている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

47

## Q6：通常協定から戦略的パートナーシップへ

• A6：

学生交換など日頃の交流に加え、執行部が参加する国際会議にあわせて個別に意見交換を行ったり、大学コンソーシアムの活動で加盟大学と連携を図ることで、一段上の深い交流につながっている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

48

## Q6：通常協定から戦略的パートナーシップへ

### ・A6：

アフリカ・エチオピアのバハルダール大学およびインジバラ大学との提携では、地域課題に対する総合的な取り組みを展開している（詳細は後述）。アジア・タイのタマサート大学との締結では、国際教養学部を中心に世界市民教育分野を重視した交流を継続し、毎年交互にホストとなり共同シンポジウムを開催し学生交換を継続している（同大学内に本学海外事務所を設置し連携を強化）。これらの事例から、異なる地域や分野での共通目標設定と持続的な交流が、大学間の戦略的パートナーシップ形成への重要なステップであることが示唆される。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

49

**Q7：工学分野での連携から  
全学的な戦略的パートナー  
シップに発展した事例や、  
工学分野を含む連携で両校  
の特有のリソースを効果的  
に活用している事例があれば  
伺いたい。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

50

## Q7：工学分野を含む戦略的パートナーシップ

### ・A7：

本学では相当数の部局が参画することを戦略的パートナーシップを始める条件としているが、その中で工学分野での連携が活発な例は多い。例えばストックホルム大学群（ストックホルム大学、スウェーデン王立工科大学、カロリンスカ研究所）との戦略的パートナーシップにおいては、工学系研究科の機械工学専攻、システム創成学専攻、精密工学専攻で運営している Global Mechanical Engineers (GME) プログラムを基に共同教育プログラムを充実させている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

51

## Q7：工学分野を含む戦略的パートナーシップ

### ・A7：

本学では戦略的パートナーシップにより、現代社会の課題に複合的なアプローチで取り組むことをその活動の目的としており、そのため課題設定に基づく学内連携の推進を図っている。工学分野については、高齢化社会の課題への対応として、両大学それぞれの工学系の技術と医療、保健とを融合させる取り組みを実施している。当該取り組みにおいては将来的に両大学間の研究施設の相互利用も検討している。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

52

## Q7 : 工学分野を含む戦略的パートナーシップ

### • A7 :

アフリカ・エチオピアのバハルダール大学およびインジバラ大学との提携では、地域課題に対する総合的な取り組みを展開している。同国のタナ湖で水草（ホテイアオイ）が過剰繁茂して環境汚染や経済的損失を引き起こしている課題に対して、リモートセンシング技術等のICTを駆使して解決にあたっている。バイオマスから有価物（バイオガス、微細藻類等）を生産するプロセスを研究開発することで、環境保全と経済成長を両立させる取り組みを推進している。この戦略的パートナーシップにおける取り組みは、SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム）に採択されている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

53

### National problems and policies in Ethiopia

#### Conservation of lake ecosystem and biodiversity, and utilization of water hyacinth

- Federal and local governments investing huge budget and human resources every year to remove water hyacinth
- Difficult to eradicate because of fast proliferation

#### National Water Hyacinth Eradication Campaign 2012~2018

Total number of labor : 1 million people

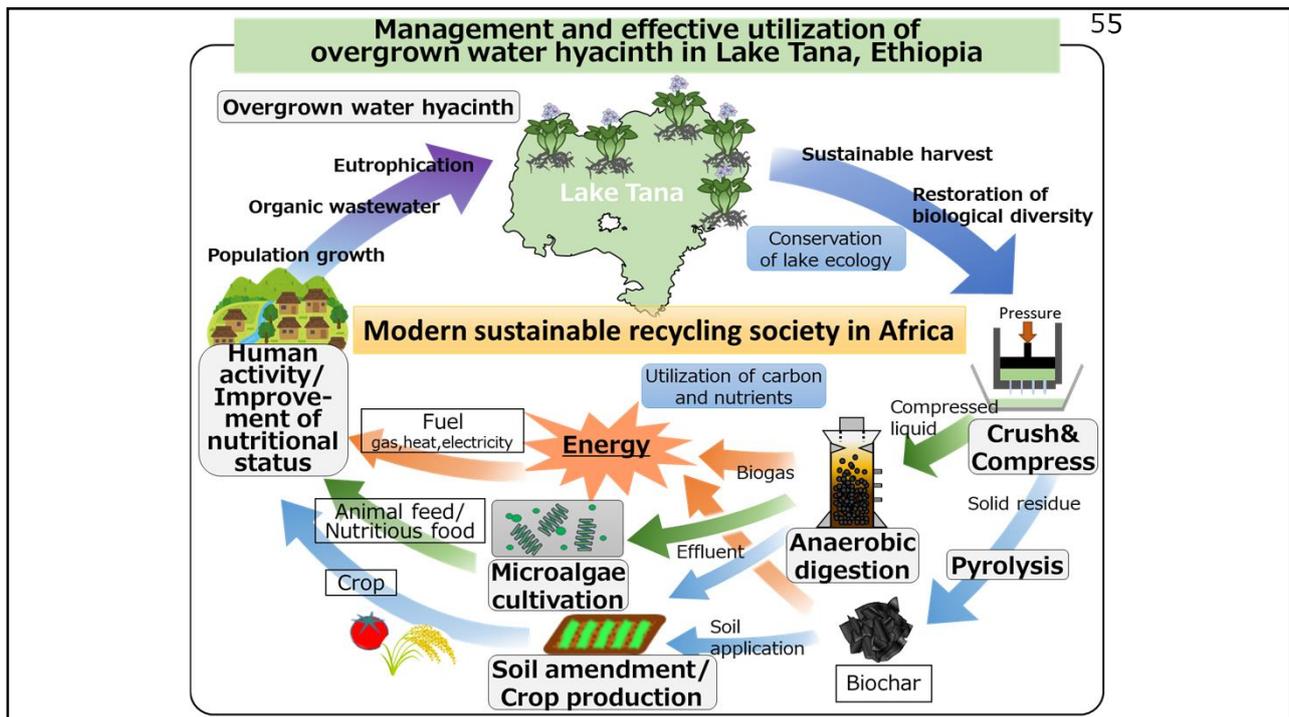
Total labor cost : 100 million Ethiopia Birr

(~USD \$ 2.6 mil)



<https://allafrica.com/stories/201709060104.html>

54



55

## Q7 : 工学分野を含む戦略的パートナーシップ

### • A7 :

戦略的パートナーシップ協定ではないが、欧州の工学系高等教育機関のネットワークであるTop International Managers in Engineering (T.I.M.E.) Associationに加盟し、本学の理工学部、理工学研究科と欧州の理工系学部・大学院（欧州5カ国13大学）とのダブルディグリープログラムを実施。これらの協定校との連携を深めている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

56

## Q7：工学分野を含む戦略的パートナーシップ

・A7：

本学の「国際共同大学院」の取組では、部局の枠を超え、パートナー校と連携して共同教育を実施。本学教員と連携先の大学教員が共同指導を行い、参加学生は連携先への研究留学が義務付けられている

（例：スピントロニクス分野ではレーゲンスブルク大学等、材料科学分野ではダルムシュタット工科大学等と連携）。また、材料科学および工学分野の研究連携を強化することを目的に、フランス国立科学研究センター（CNRS）、リヨン大学と連携した国際共同研究ユニット（UMI）として、本学には2016年、国立応用科学リヨン校（INSA-Lyon）には2018年に、ジョイントラボ“ELyTMax”を設置。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

57

**Q8：戦略的パートナーシップの一環として教育連携事業に参画する場合に求められる要件はあるか。例えば単位互換できる英語課程を設けていることが必須なのか、長期間自大学を離れることになる場合、大学間の学事暦や履修要件のギャップなどをどのように解消しているのか。特に、履修要件の厳しい理工系機関の取り組み事例を共有いただきたい。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

58

## Q8：戦略的パートナーシップの教育連携事業に関する要件

### ・A8：

戦略的パートナーシップであることにより特別な要件が生じるわけではない。この質問に例示されている課題は交換留学の実現に共通するものであり、戦略的パートナーシップであることにより特に克服が容易になったり、逆にハードルが高くなったりすることはない。理工系分野での交換留学を実現している例は本学を含め多数あるので、その事例等を紹介することは可能。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

59

## Q8：戦略的パートナーシップの教育連携事業に関する要件

### ・A8：

SUIJIコンソーシアム事業の場合、事業への参加資格としては、原則としてコンソーシアム構成員である必要がある。特に、協働教育プログラムについては、コンソーシアムのガイドラインに沿って質の保証を伴った単位認定を行っている。このため、コンソーシアム構成大学以外からの教職員・学生の参加希望がある場合には、都度協議をしている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

60

## Q8：戦略的パートナーシップの教育連携事業に関する要件

### ・A8：

単位互換の英語課程は一つのアプローチではあるが、重要なのは異なる大学間での学事暦と履修要件の調整と考えている。長期離学時には学事暦の調整や履修要件の柔軟な認定を行い、学生がスムーズな進学・卒業となるよう留意している。特に理工系機関との事例では、専門英語科目や専門コース提供に加えて、学事暦のマッチングや事前カウンセリングで学生のニーズを把握するよう努めている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

61

**Q9：戦略的パートナーシップと銘打った活動について、評価をどのように行っているのか。**

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

62

## Q9：戦略的パートナーシップの評価方法

- A9：

本学では、戦略的パートナーシップに参画する部局から構成されるチームを相手校ごとに設置しており、年度ごとの予算配分に際し、各チームから大学本部に提出された活動報告書および活動計画書を基に、交流実績、参画部局数、持続可能性などの項目を設定して評価を行っている。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

63

## Q9：戦略的パートナーシップの評価方法

- A9：

大学としてのKPIを中心に、戦略的パートナーごとに毎年活動実績（活動内容、交流参加者数、共著論文数、外部資金への申請件数など）を整理している。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

64

## Q9：戦略的パートナーシップの評価方法

・A9：

定量的な指標だけでなく、質的な成果も評価対象とし、共同研究や学生交流、プロジェクト実施の頻度や成果等を考慮し、持続可能な連携の実現を重視している。プロジェクトに採択されている事例であれば、内外評価部会を通じて評価の機会を得ている。本学中長期計画（グランド・デザイン）の取り組みに掲げる取り組みにおいては、年数回PDCAの進捗を管理し、結果を本学の外部評価委員会の議題にあげ、高等教育、企業、地域社会等の観点で評価を受けている。その行程を通じ、大学のミッションや戦略との整合性を見極め、目標達成度を検証している。また学内外の交流イベントや成果発表会等を通じて、パートナーシップの進展と効果を広く共有し、持続的な成果を確認する仕組みとなるよう留意している。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

65

## Q9：戦略的パートナーシップの評価方法

・A9：

（工学分野での連携事例として触れた）マッチングファンド事業については、採択プロジェクトは年度ごとに共同研究活動の進捗・最終報告書を提出する。その報告された成果（共著数、受賞数、招待講演数、国内・国際特許出願数、外部資金獲得額・件数、交流（受入・派遣）件数等）は当該マッチングファンド事業の審査委員会（担当理事等で構成される）で評価される。また、採択プロジェクトは年度ごとに共同研究活動の進捗・最終報告の発表をし成果を公開する。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

66

## Q10：戦略的パートナーシップに関する代表的な文献（研究論文等）があればご教授いただきたい。

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

67

## Q10：戦略的パートナーシップ関連文献

・ A10：

◆望月麻友美，大林小織（2017）「研究における戦略的パートナーシップマネジメントと、政策との関係性：欧州の事例と考察」

[https://dspace.jaist.ac.jp/dspace/bitstream/10119/15005/1/kouen32\\_727.pdf](https://dspace.jaist.ac.jp/dspace/bitstream/10119/15005/1/kouen32_727.pdf)

◆荻野亮吾，中川友理絵（2021）「大学と地域のパートナーシップの質と地域に与える影響の評価方法の検討：高等教育機関における地域と連携した学習に関するレビューから」

<https://saga-u.repo.nii.ac.jp/records/22907>

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

68

## Q10 : 戦略的パートナーシップ関連文献

• A10 :

- ◆Banks, C., Siebe-Herbig, B. and Norton, K. (Eds.). (2016). Global Perspective on Strategic International Partnerships: A Guide to Building Sustainable Linkages. New York: Institute of International Education.
- ◆Sandström, A. M. and Weimer, L. (2016). The EAIE Barometer: International Strategic Partnerships. Amsterdam: The European Association for International Education.

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

69

## Q10 : 戦略的パートナーシップ関連文献

A10 :

- ◆「高等教育の新しい地政学 ワールドクラス大学セクターにおけるグローバルな協力・国家間競争と社会的不平等」サイモン・マージンソン 著 ワーキングペーパー 34 2018年4月（日本語訳2019年2月）米澤彰純 訳

<https://www.researchcghe.org/perch/resources/publications/wp34final-j1.pdf>

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

70

## Q10：戦略的パートナーシップ関連文献

A10：

- ◆Deardorff, D.K. et al. (Eds.) (2012). The SAGE Handbook of International Higher Education. SAGE.
- ◆Deardorff, D.K. et al. (2021).The Handbook of International Higher Education Edition 2. AIEA.

※戦略的パートナーシップに関する直接実務的な文献。概要は第2回戦略的パートナーシップシンポジウム報告書18頁（東北大学・米澤彰純教授基調講演スライド）にも記載。 <https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400184826.pdf>

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

71

## 参考資料

- 戦略的パートナーシップシンポジウム報告書
    - 第1回（2022年3月15日開催）
    - 第2回（2023年3月3日開催）
- <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/intl-activities/exchange/sp-uni.html>

2023.09.08 戦略的パートナーシップワークショップ

72